

# グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール [shikoku\\_soumu@rinya.maff.go.jp](mailto:shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp)



四国山の日

No.1109 2012年8月号

## 四国ブロック

# 平成24年度『准フォレスター研修』開催

准フォレスター研修が7月9日から高知市内のホテルで行われ、  
第1回の研修は四国四県から21名が受講しました。 (詳細は2頁)



新木四国森林管理局長から開講にあたっての挨拶



森づくりの構想実習：発表



間伐実行監理演習



平成二四年度の准フォレストスター研修が七月九日から高知市内のホテルにおいて始まり、第一回の研修は四

国四県の県職員二二名が受講しました。

研修の講師には、林野庁及び四国森林管理局の職員をはじめ、大学教授や団体職員等の外部講師を招き行われました。

准フォレストスターは、平成二三年度から始まった新たな森林計画制度の下で、市

町村が策定する「市町村森林整備計画」や森林所有者等が策定する「森林経営計

画」について、その認定・

実行監理等を支援する県や国有林の職員です。

林野庁では、この准フォレストスターを育成するため平成二三年度から全国を七ブ

ロックに分けて研修を行っており、四国森林管理局においても、昨年度に引き続き本年度も研修（第一週は五日間、第二週は四日間）

を二回実施することとしています。

研修の開講式では、新木四国森林管理局長の激励の挨拶から始まりました。研修の内容は、森林・林

業再生プランの概要、フォ

レストスターの役割、地域の森

林・林業の将来ビジョンと

市町村森林整備計画、森づく

くりと森林経営計画、森づく

くりの構想、木材の流通・

販売、林業労働安全、プレ

ゼンテーション、間伐実行

監理演習、森林資源循環利

用構想策定演習、市町村森

林整備計画演習などとなつ

ています。

森づくりの構

想及び間伐実行

監理演習では、

四万十森林管理

署管内の新道山

国有林（高知県

中土佐町）を演

習フィールドと

して、人工林施

業における目標



グループ討議を通じ、実効性のある研修を目指す

林型や当面の施業方法の検討や森林作業道整備の検討等について現地演習を行いました。今回の二二名の研修生は九月三日からの研修Ⅱ（第二週目四日間）を受講した後、准

林型や当面の施業方法の検討や森林作業道整備の検討等について現地演習を行いました。今回の二二名の研修生は九月三日からの研修Ⅱ（第二週目四日間）を受講した後、准

林型や当面の施業方法の検討や森林作業道整備の検討等について現地演習を行いました。今回の二二名の研修生は九月三日からの研修Ⅱ（第二週目四日間）を受講した後、准



間伐実行監理実習（作業道整備の検討）



ふれあいセンターでは、平成一九年度から森林環境教育に関する指導者の裾野の拡大を目的とした研修会「森林環境教育サポート講座」を開催しており、昨年度までに高知県と愛媛県の延べ二八名の先生方が受講しています。

高知県での研修会は、昨年までは地元西土佐地区の津野川小学校で行ってききましたが、昨年度末に西土佐地域の六小学校が一枚に再編されたことから、今年は七月二六日に四万十市中心部にある市立中村南小学校で、県



講義風景（愛媛県）

また、愛媛県についても従前は松野町内の小学校を会場としてきましたが、今回は八月一日に宇和島市の

市立宇和津小学校で開催しました。アクセスに恵まれたこともあり、松野町、宇和島市、愛南町の九小学校から一名の先生方が受講しました。

「講座」は森林・林業に関する知識や技術、指導方法等を「楽しく体験・習得」をモットーに、「当センターの活動、森林環境教育の重要性」及び、教科書補完プログラムの中の「空飛ぶ種子」「土壌にすむ生物」「炭焼き体験」「木工クラフト」を選定し、実験・実技を多く取り入れたものとなりました。

「空飛ぶ種子」では、植物が風や動物を利用するなど、様々な方法で種子を散布することを紹介し、アルソミトラやマツ、ニワウル

シ等の種子の模型を作り、それを飛ばして実際の飛び方を確認しました。

「土壌にすむ生物」では、約一ヶ月前に校庭の片隅に埋めておいた野菜などの生ゴミ、落ち葉、ペットボトルなどを掘り起こし、腐り具合や土の臭いを嗅いだりして確認した後、土壌を採取して顕微鏡で微生物を観察しました。



土壌生物観察中（高知県）

り鶴・ドングリ・マツボツクリなどが光沢のあるきれいな炭になりました。また、「木工クラフト」は、熱中症が心配されるほどの入れ込みようでした。

研修両日とも、うだるような暑さに加え、愛媛県で開催した八月一日は台風一〇号が接近し、スケジュール変更を余儀なくされるなどのハプニングもありましたが、両会場とも先生方の童心に返った微笑ましい光景や歓声が絶えることのない楽しい研修会となりました。

実施後のアンケートでは、「森林の働きや身近な環境を考えるきっかけになった」「森・川・海のつながり

りが分かりやすかった」「実  
験・体験が良かった」「多  
くの教科で関連したものが  
あり、是非取り入れたい」  
などの心強い感想をいただ  
きました。

会場、機材等を快く提  
供していただきました中  
村南小学校及び宇和津小  
学校には、紙面を借りて  
お礼申し上げます。



炭焼き準備

## 各地のたより



### ふれあい高城の森で

#### ボランティア活動

〈徳島森林管理署〉

七月一九日、徳島県那  
賀町釜ヶ谷国有林一〇三  
林班の「ふれあい高城の  
森」で、ボランティア活  
動が行われました。

ふれあい高城の森(四・  
五九ha)は、平成一五年  
に(社)高知林業土木協会  
を母体とする「四国の森  
づくりに参加する会」と  
協定を締結し、人工林の  
間伐や広葉樹下木の植栽、  
保育など、公益的機能の  
高い森林づくりを目標に、

毎年二回、森林整備を実  
施しています。

当日は天候に恵まれ、徳  
島県及び香川県のボラン  
ティア二一名と当署から  
署長、森林官、森林ふれ  
あい係長が参加しました。



イロハモミジを植樹中

まず、この場所でのボ  
ランティア活動が一〇年  
を迎え感無量であるとの  
会長挨拶があり、署長が  
お礼を述べた後、作業手  
順を確認して、二人一組  
で針広混交林に誘導する  
ため、ケヤキ、イロハモ  
ミジ、コナラの苗木八〇  
す。

この付近でも  
ニホンジカによ  
る被害が激しい  
ため、植栽と同  
時に、ツリープ  
ロテクターの設  
置が欠かせませ  
ん。支柱を打ち  
込んでツリープ  
ロテクターを設  
置し、広葉樹の  
苗木を丁寧に植

たボランティアと協力し  
て森林の整備を進めるこ  
とを通じ、森林の有する  
公益的機能の高度発揮を  
図り、市民の理解と協力  
が深まるように取り組ん  
でいきたいと考えていま  
す。



樹名板取り付け

巡視員と

登山道を整備

〈徳島森林管理署〉

七月二〇日、徳島県剣山地域の巡視員と協力して、登山道の整備を行いました。自然休養林に指定されている剣山地域では、その適切な保護・管理を行うため、剣山山頂ヒュッテの新居さんなど、

三名の巡視員を任命してありますが、今回、三好市東祖谷見ノ越の剣神社から西島に至る登山道（名頃谷山四七林班）について、当署から六名が参加し、巡視員と協力して整備を行ったものです。一〇時に見ノ越に集合した一行は、二手に分かれて、樹名板の取り付けと登山道の整備を行いました。また、登山道については、多くの登山者が利用する主要な登山道であるため、凹凸を均し、転石の除去や水切りを行うなどして、登山者の安全な歩行ができるようにしました。

したが、当署としてはこうした取組を通じて、「国民の森林」としての利便性、安全性の向上や、国有林に対する一層の市民の理解と支援をいただけるように努めていきたいと考えています。

学校生徒一七名（一年生から三年生）が参加して、シラクチカズラ（サルナシ）の挿し木苗作りなどを実施しました。かずら橋の材料であるシラクチカズラは年々採取が困難になっていることから、当署と木の文化を支える森（祖谷のかずら橋・架け替え資材確保の森）の協定を結び、実行委員会が中心となって、シラクチカズラの安定的確保のための様々な取組を実施しています。今回行った挿し木苗作りは、この一環としておこなわれたもので、今回で四年目となります。

した。

樹名板は、あらかじめ

じめ登山道周辺の

樹木を調査し、防腐

木材で製作してい

たもので、西島から

下りながら、ブナや

ヒノキなどの巨樹、

ナナカマド、ヒメ

シヤラなどの冷温帯

なお、当日はテレビ局も取材に同行し、新居さんらの作業状況を収録していました。

あいにく、午後から激しい雷雨となったため、途中で作業を打ち切りま

した。

七月二〇日（金）、徳島

県三好市西祖谷山村の「西

祖谷ふれあい公園」にお

いて、祖谷のかずら橋・

架け替え資材確保実行委

シラクチカズラの  
苗木作りを実施

〈徳島森林管理署〉



当日は、実行委員会長の平栗氏より、当委員

員会一〇名と、当署の流域管理調整官と西祖谷中

長

会の取組についての説明をいただき、当署の流域管理調整官が技術的な指導を行い、実行委員会が用意した挿し穂を使って、約四百本の挿し木苗を作成しました。



シラクチカズラ（サルナシ）の苗木作り

今回は培養土性発根率の向上を目指すため、従来使用してきた鹿沼土と赤玉土を配合したものの、川砂と木炭を配合したものの二種類を用いました。更に、シラクチカズラを採集した後に残った根株に接ぎ木を行い育てることができないかと考え、接ぎ木についても試験的

に実施しました。

今回、養成した苗木は数年後には国有林に植え込まれることとなりますが、今後はより健全性が高い実生苗の養成などにも取り組むこととしていきます。当署としては、今後とも協定に基づいて地域の重要な文化財である祖谷

のかずら橋を後世に伝えていけるように、国有林のフィールドや技術的知見を活かして積極的に寄与していきたいと考えています。



**森林教室**

**(木エクラフト)を実施**

〈徳島森林管理署〉

七月二四日、徳島市立内町児童館で、児童三〇名(小学一〜六年生)を対象とした森林教室(木エクラフト)を行いました。

当署では、前期と後期に分けて公募により森林教室を実施していますが、

今回の森林教室は前期分七回のうちの第三回目で、内町児童館から「子供達が木に親しみを持てるような森林教室をお願いしたい。」という内容で依頼を受けて実施したものです。

始めに、森林ふれあい係長より徳島森林管理署の仕事について説明を行いました。子供達は元気な声

「(林内が)明るくなった!」などの声があり、興味津々の様子でした。

木エクラフトでは、徳島県産材のスギ間伐材を使用した「写真立て」を作りました。木の枝などで作った動物や、ドンダリ、松ぼっくり等で飾り付けをし、思い思いに写真立てを仕上げていました。

で返事をしたり、積極的に質問するなど興味をもって話を聞いていました。また、間伐の説明では、動画で伐採する様子を見せたところ、子供達からは「木を伐るところを初めて



楽しい、木エクラフト

当署では、森林の公益的機能や木材利用についての理解を深めてもらうため、地域や学校等の要望に応えつつ、今後とも計画的に森林環境教育を実施していきたいと考えています。



### 親子サマー

### キャンプに協力

〈徳島森林管理署〉

七月二十八日から二十九日にかけて、徳島県美馬市木屋平の中尾山高原を拠点に親子サマーキャンプが開催されました。これは、地球に優しいエコ・ユニオンを標榜する連合

徳島が、夏休み期間中に開催している恒例の行事で、当署は森林環境教育の一環として従来から協力しています。今回は総勢八三名の参加があり、当署からは六名の職員が支援しました。

開会式では、事務局及び地元から挨拶があり、当署からは最近の森林・林業を巡る状況やニホンジカの被害対策についての話をしました。

開会式の後、木工クラブとウォークラリー班の二班に分かれて森林教室を実施しました。木工クラブ班は、中尾山体育館で、当署から森林の働きについて説明を行った後、「森の宝箱」の

製作に取り組みました。これは、徳島県産のスギ材で開閉式の箱を組み立て、木の枝やビーズなどで飾ったり、ペイントして仕上げるものです。サマーキャンプでの木工は、夏休みの宿題にもなるので、従来から人気があり、それぞれ親子で協力してオリジナルの作品に仕上げていました。

ウォークラリー班は、つるぎ町の夫婦池まで移動して、葛籠(つづろ)国有林を經由して丸笹山(二、七二二m)に登り、帰りの散策の途中でニホンジカ対策の樹木ガードを設置するものです。当日は、あいにくの曇り空で眺望は良くありませんでしたが、丸笹

山ではシコクフウロなどの高山植物の花に出会うことができました。また、この付近では、ニホンジカによる剥皮被害が特に進行しているため、五〇本のウラジロモミなどに樹木ガードを巻き付け、「この木は私が守ります。」と書かれた名札を取り付けたかったと考えています。



この木、僕が守るよ

## 「森と湖に親しむ

### 旬間」で木工教室

〈愛媛森林管理署〉

「森と湖に親しむ旬間」の行事として、七月二七日に石手川せせらぎ公園において国土交通省、松山市等との共催により「自然と遊ぼうDAY!」と題して親子交歓会が開催され、当署は木工教室を担当しました。

当日は、小学生や保護者ら一〇四名が参加し、署長から、当日の体験予定に合わせて、森林は①水を貯めこんでくれること、②虫や鳥などの生活の場となっていること、③木材を生み出してくれることなど、人にとって大切

なものであることを説明しました。午前中はエビやカゲロウの幼虫などの水生生物を捕獲したり、双眼鏡で公園周辺の野鳥の観察をしたり、公園内の土壌をルーペで見たり触ったりしながら、子供たちは歓声を上げたり気味悪がったりしながらも、担当講師の方々からの水と森林の働きや水生生物・野鳥・昆虫等の係わりについて説明に、真剣に聞き入っていました。

午後からは愛媛県産のスギを使用した木工品製作（なんでも棚等）を行いました。普段は、釘や金槌を使用する機会が少ないせいか、なかなか思っ

ず、森林管理署の職員に仕上げをしてもらう子供もいましたが、子供たちにとっては大切な夏休みの思い出となったようでした。

その後、冷たい水を体験できる川遊び等を行い、最後にカブトムシのプレゼントもあり、楽しい夏の一日は無事終了しました。



親子で力を合わせて何でも棚作成中



## 森ヶ内山

### ふれあい事業を実施

〈四万十森林管理署〉

七月二七日、「しこくの森づくりに参加する会」主催による平成二四年度第一回森ヶ内山ふれあい事業が開催されました。

この事業は、当署と「しこくの森づくりに参加する会（代表 高知林業土木協会山中巨司）」が平成二〇年に締結した「社会貢献の森における森林整備等の活動に関する協定書」に基づき、「社会貢献の森ヶ内山ふれあい事業」として高知県四万十町森ヶ内山国有林三〇三八林班（五・七ha）をフィールドとして保育間伐や林道整





森ヶ内山ふれあい事業参加者



林道の草刈りの様子

備等を行っているもので

当日は、同会から二一の企業体三四名のボランティアと、

凹凸の修繕等の作業を行いました。

一日でしたが、こまめな水分補給や適度な休憩などにより、熱中症になる

の児童とその保護者で、計二三組が参加しました。始めに、当署の森林ふ

同事業は、企業による社会貢献活動の一環として森林整備を行うことにより、清流四万十川の保全や地球温暖化防止等の公益的機能の増進に寄与することを目的として毎年二回実施されています。

ティアと、当署から職員九名が参加し、松葉川温泉に集合して、主催者と署からのあいさつ等の開

会式の後、七班に分かれて造林鎌や鋤等の手工具を用いて夏草の茂った林道沿線の除草や、路面の

山づくりを携わってきたこと、少しでも先人の思いや苦勞を体験する

秋には今年度第二回として、これまで継続して行われている保育間伐作業が予定されています。梅雨明け後の大変暑い

### 「芸西村

### 親子木工教室」

〈安芸森林管理署〉



七月二二日、高知県安芸郡芸西村で木工教室を実施しました。対象は村内の幼稚園児から小学校

たちは、最初は組み立て作業に苦戦していましたが、保護者と協力しながら、

木の製品を使うことが森林を守ることにつながるという説明を行いました。次に、見本を参考に作り方と、道具の安全な使い方などの注意点を説明した後、低学年は鉛筆立て、高学年は本立ての製作にとりかかりました。子供



親子で力を合わせて作品づくり



ら一生懸命作品を作っていました。また、木の枝や木の実を使ってカブトムシを作ったり、どんぐりや貝殻で飾り付けたりするなど思い思いの作品を作り楽しんでいました。親子で木にふれあう貴重な機会になったと同時に、

親子の良い思い出になったと思います。

芸西村での親子木工教室は恒例行事として定着してきており、森林や木材に親しめる場として、今後も実施していきたいと考えています。

### 三件目となる 森林整備協定を締結

〔安芸森林管理署〕

七月二七日、当署管内では三件目となる「奈半利町須川地区森林整備推進協定」を当署・奈半利町・高知東部森林組合の三者で締結しました。

この協定は、高知県奈半利町須川地区に所在する国有林一五〇・九九haと奈半利町官行造林六五・〇〇ha並びに民有林八六・九三haを森林共同施業団地として設定し、それぞれ

が連携して森林整備や路網整備を実施することと低コスト作業システムの構築を目的としています。

高知東部森林組合が実施することとしています。

今後は、協定者間の連絡調整を図るとともに、実施計画に基づき民有林と国有林が一体となった効果的な森林整備を図っていきたくと考えています。



左から高橋奈半利町副町長、岡井安芸署長、田中森林組合長